

一薬会報

平成25年11月16日

CONTENTS

教務部長あいさつ	1
会長あいさつ	2
講座めぐり	3
リカレントセミナー	4
薬剤師生涯学習講座	5
キャンパスライフ見て歩き	6
カナダ海外薬学研修成果報告	8
第75回九州山口薬学大会	9
同窓活動報告	10
役員会報告、同窓会役員、会計報告	13
アドミッションオフィス (入試事務局) からのお知らせ	14
ホームページを運用中です!	15
名簿購入、編集後記	16

グローバル化と これからの薬学教育

第一薬科大学 教務部長
荒牧 弘範



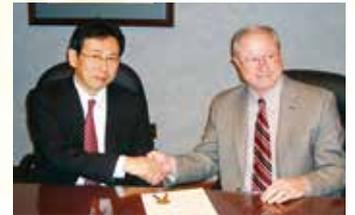
【プロフィール】

1982年 3月 福岡大学 薬学部 卒業
1984年 3月 九州大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了
2000年 3月 第一薬科大学 分子生物学分野教授
2011年 4月 第一薬科大学 学生部長
2013年 1月 第一薬科大学 教務部長

一薬会会員の皆様にご挨拶申し上げます。平成25年1月1日より、本学の教務を担当しています荒牧弘範と申します。研究室は、分子生物分野を預らせていただいています。

毎年恒例の大学の近況についてお話しさせていただきます。薬学6年制に移行後、さまざまな課題がありますが、国際化を視野に入れたこれからの薬剤師にとって、薬学界の国際化が遅れている現状から、「海外の現状を知ること」は重要であります。

すなわち、諸外国の薬学教育や薬剤師の職能の違いを肌で感じること、ならびに英語力を身につけることが重要であります。そのため、本学は海外薬学研修を定期的に実施するため、国際学術文化交流の一環として、米国デューク大学薬学部と教育研究交流を締結いたしました。吉武副学長が渡米し、2013（平成25）年3月25日（月）にデューク大学で調印式が行われました（写真）。実質的な教育交流の第一歩として、2014（平成26）年3月に、本学教員並びに学生がデューク大学を訪問し、教育研究交流を行う予定です。平成25年8月27日（火）より、米国デューク大学への薬学国際研修の学生の参加募集を行い、募集定員に達しており、募集を締め切りいたしました。海外薬学研修については、既に、第一薬科大学後援会主催で、本学の学生が、2011年3月にスウェーデン・ウプサラ大学、2013年3月にカナダ・アルバータ大学と2回の海外研修に参加いたしました。また、英語力向上のきっかけとして、本年度から、「英語を気楽に楽しめたり、皆でちょっと英語を勉強できる」、そのような場所「英語ステーション」を学内につくる計画も進められ、徐々に本学も国際化の雰囲気ができつつあります。



次に、薬学教育の話をお話しさせていただきます。平成18年度からの薬学6年制では、薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムにより、実質的な薬学教育がなされ、現在に至っております。しかしながら、6年制の一期生が卒業する頃からモデル・コアカリキュラムの見直しがなされ、本年度中に正式に文部科学省からモデル・コアカリキュラムの改訂版が提示されます。いよいよ、平成27年度から第二ステージの6年制薬学教育が始まります。本学も、その改訂案にそった新たなカリキュラムの作成に着手いたします。その改定版では「基本事項」として、薬剤師の使命、薬剤師に求められる倫理観、信頼関係の構築、多職種連携協働とチーム医療および自己研鑽と次世代を担う人材の育成、「薬学と社会」として、人と社会に関わる薬剤師、薬剤師と医薬品等に係る法規範、社会保障制度と医療経済、地域における薬局と薬剤師、以上の項目については6年間通しての教育が求められています。この「基本事項」および「薬学と社会」では、本学の教員では、カバーできない項目もあり、紙面で大変失礼かと存じますが、是非とも一薬会の薬剤師の先生方のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本学の薬剤師国家試験対策についてお話しいたします。ご存知のように、旧4年生の薬剤師国家試験の終わりにかけて低合格率が続き、2回の6年制新薬剤師国家試験においても、全国平均率を下まわっております。平成25年度より、特に6年生には演習、テストの繰り返しによる、新たな学力向上策を実施しております。その結果、確実に学生の学力が上昇しております。来春には、会員の皆様により報告ができるものと確信しています。また、5年次の実務実習におきまして、本学学生が大変御世話になっています。引き続き、今後ともご指導、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



実習棟



都築頼助記念体育館